

研修体験記

令和5年度

鹿児島市立病院 歯科臨床研修プログラム修了生 松元 勇樹 先生

私は今鹿児島を離れ一般開業医で卒後2年目の4月を迎えています。日々の業務はまるで違いますが、鹿児島市立病院で学んだことが生きた場面も既にいくつか経験しています。

6年生の頃、臨床研修先として鹿児島市立病院を選んだおかげで今があるというそんな心境です。それでは、私が市立病院を選んだ理由やそこで何を学んだのか、それが今どのように活かしているのかなど少しでもお伝えできればと思います。

私が臨床研修先を選ぶ上で1番重要視したことは、全身疾患を学べることです。将来的には一般開業を目指している私にとって、遅かれ早かれ一般歯科治療は学ぶことになる。かといって、年齢的に大学院進学はあまりしたくない。ならば研修医の間だけ口腔外科で全身疾患と外科処置を集中的に学んだ方がいいんじゃないか？それならどこの口腔外科がいいのか？県内なら鹿児島市立病院。そんな具合で決めました。先輩からの評判もよく、抜歯の経験もたくさんできるというのも魅力でした。もちろん県外の口腔外科という選択肢もあったかもしれませんが、特定の分野に偏らず広く外科領域に触れることができたため結果的によかったと思います。

また、医科の同期とも親しくなれるため、度々情報交換することもできました。鹿児島市立病院での1年間の研修では初診・再診や智歯抜歯、過剰歯抜歯、歯根端切除、全麻での執刀、周術期口腔機能管理などを主に自験することができました。診察では患者さんの主訴や症状からどのような検査を行い、どのように診断するか、既往歴等を円滑に聴取しどのような全身疾患に注意しどう対応するかを学びました。外科手術では様々な埋伏状態での抜歯を経験することで、その方法や開業医で手を出すべきか否かの判断などを身につけることができました。

今、開業医に就職しう蝕治療や根管治療等の一般歯科治療を主に行っていますが、たまにある抜歯のときは既往歴の聴取をすぐに行いその注意点を瞬時に頭に浮かべて対応しています。先日は上顎智歯の抜歯を任せましたが、秒です。確かに、一般歯科治療についてはスタートしたばかりで初心者同然かもしれませんが、明らかに外科的手技や対応方法については外科にいたからこそ身についたものがあると感じています。おそらく、研修医期間に一般歯科に触れられないことを心配する方がいらっしゃると思いますが、正直心配いりません。今の職場での入職初日にはCR、支台歯形成、抜随、根管治療等任せましたがなんとかなりました。任せてくれる先生方も症例を選んでくれます。

私にとって鹿児島市立病院での1年間は本当に短いものでしたが、歯科医師人生のスタートとしてこれ以上のものを求めることはできないくらいかけがえのない時間を過ごすことができました。私を育ててくれた先生方やスタッフの方々には心から感謝していますし、そんな方々に恥じない歯科医師になりたいと思います。